

六郎 第六號

備考

淨馬 校合 二月七日

秘書官 本宿

郵帶

主務

丸田

乙卯年二月四日

主務

造船課長

決裁 大臣

次官代理

艦政局長

主任課僚

土師

機関課長

主任課僚

考案 後原 鎌倉村 坊々衆

書面之趣 認許

明治三十四年二月七日

三
寶
三
月
廿
七

艦政局

破道一第 三 九 九 二

六 耶 甲 第 六 六 號

海防の増進を期す

司

海防の増進を期すは海軍の増強に在り
海軍の増強は兵備の充実に在り
兵備の充実は兵器の改良に在り
兵器の改良は技術の進歩に在り
技術の進歩は教育の普及に在り
教育の普及は国民の啓蒙に在り
国民の啓蒙は政治の刷新に在り
政治の刷新は国家の発展に在り
国家の発展は文明の進歩に在り
文明の進歩は人類の幸福に在り

海防の増進を期す

海防の増進を期すは海軍の増強に在り

海軍省

麻平普才三六号

本新証書は、
与

本新証書は、
与

本新証書は、
与

本新証書は、
与

本新証書は、
与

本新証書は、
与

横鏡一才三四九号

...

海軍省

左記

海軍省の記名者白首親

海軍省の記名者白首親

1243



二月十日

閱覽濟

艦政局長



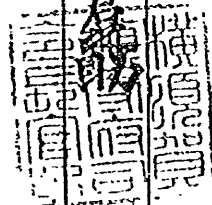
横濱第一六七號

六耶甲九號

別紙進達候也

明治二十二年二月八日

横濱鎮守府司令長官海軍中將西郷從道殿
海軍大臣伯爵西郷從道殿



伊藤

海軍省

海軍省

今、海軍省の事務を
二故、海軍省の事務を
二十一年一月一日

海軍省
海軍省事務

海軍省事務

海軍省

1245

壹一六九
二月六日

艦政

閱覽濟

艦政局長

横鎮三第二〇七號之二

一耶 一 一 號

別紙進達候也

明治三十一年二月十九日

横須賀鎮守府司令長官海軍中將由夏前
海軍大臣伯爵西郷從道殿

次官代理 伊藤

海軍省

海軍省 第四六号

八野信子 兵庫四航ノ家ニシテ居ル

本日は午後七時半に八野信子 兵庫四航ノ家ニシテ居ル
左舷操舵工中ノボシト、操舵ノ自覚其地ニ有リ
ナリト云々其地ニシテ操舵ノ自覚其地ニ有リ
航内ニシテ操舵ノ自覚其地ニ有リ
四野信子 兵庫四航ノ家ニシテ居ル

七兵衛

海軍省 第四六号

七兵衛 兵庫四航ノ家ニシテ居ル

七兵衛 兵庫四航ノ家ニシテ居ル

海軍省

普四三
二月廿日

横鎮三第 二〇也 號ノ也

別紙進達候也

明治三十一年二月三日

海軍大臣伯爵西郷從道殿

横須賀鎮守府司令長官海軍少將中津島嘉徳

海軍省
横須賀鎮守府

次官代理 (伊藤)

海軍省

重定海文

一
此
年
日
誠
言
神
之
旨
其
政
少
於
本
日
多
後
已
時
隔
浩
久
三
十
年
二
十
年

其
言
確
信
若
白
語
之
如
是

揚
子
江
之
復
原
也

海
軍
省

普六〇〇
三月二日

關覽濟

横濱三番二〇九號ノ七

別紙進達候也

明治三年二月廿奇

横濱實業守府司令長官海軍中將西郷從道殿
海軍大臣伯爵西郷從道殿



次官代印



海軍省

1250

麻平善方 四九

式運結了後の事

本殿義昌の修整は、冬に於て、西に於て、途中に
「工」の如き、極く、少く、船内にて、修理の事、
届た、運、出、修理、後、冬、に、其、年、中、
其、後、榎、輪、小、豆、島、迄、修、り、川、原、榎、輪、
島、不、定、有、一、場、に、其、年、中、小、豆、島、
内、海、に、榎、輪、島、に、榎、輪、
泊、り、其、年、中、小、豆、島、迄、新、口、
七、百、五、十、
此、年、中、
此、年、中、

麻平善方

三
月
廿
八
日

第
二
六
三
二

別紙進達候也

明治二十一年三月十九日

海軍大臣伯爵西郷從道殿

横須賀鎮守府司令長官海軍中将中野金藏

海軍省印

海軍省

實信河文

本方亦復河... 明居... 不... 三十一

三十一

親

持

海軍省

卷二七
三月廿二日

横領三第之七五號之

別紙進達候也

明治二十二年三月三日

横須賀鎮守府司令長官海軍中將子爵中牟田良輔
海軍大臣伯爵西郷從道殿

横須賀鎮守府
司令官
中牟田良輔

次官
西郷從道

海軍省

1255

陸奥府下流
河川古
福島山田川

神
麻耶

一
巻
丹
理

今
日
山
田
川
河
川
古
河
川
古
河
川
古

要
目
録

三月廿三日

艦政局

供覽

第三八〇三

別紙進達候也

明治廿一年三月廿三日

海軍大臣伯爵西郷從道殿
横濱賀鎮守府司令長官海軍中将中津島金太郎

供覽

大臣

次官從

艦政局長

（印）

丁卯甲第 乙 號

（印）
（印）
（印）

海軍省

電文譯

午前九時子氣クニ咄ニ筒尾テ鉦ル蓋カ破損バ
ハ六時ト多度津ニ着艦テ内ニ修繕ス之
見込ニ

二十二年三月二十二日

摩耶艦長吉田海軍少佐

横須賀軍務司令官福島海軍少将殿

横須三才三八号

海軍省

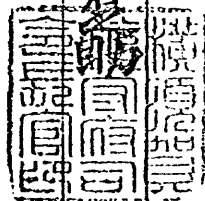
普三六九
三月廿六日

横鎮三第乙八〇號ノ三

別紙進達候也

明治三十二年三月廿六日

横濱賀鎮守府司令長官海軍中将伊藤中少将
海軍大臣伯爵西郷從道殿



關覽濟

大正



海軍省

普三三三
三月廿九日

普三三三
三七五號

別紙進達候也

明治二十一年三月廿八日

海軍大臣伯爵西郷從道殿
横須賀鎮守府司令長官海軍中将中軍中軍
横須賀鎮守府司令長官海軍中将中軍中軍



海軍省

電信譯文

本日午後一時江田島に着委細
郵便

三年三月二十七日

江田島

吉田摩耶船長

横須賀

福島運送日有官殿

海軍省

総輯

普三三三
四月六日

洋風
校令

四月六日

主務

秘書官

聯帶

年月日

主務

本宿

大臣
次官



手夏工報あ未

マヤカンハスミヤカニヨコスカニ

ニヤナヤ

鎮守

西平大臣

三六三
七

横領三第 四五五

別紙進達候也

明治二年四月九日



海軍大臣伯爵密御塔道殿
横須賀鎮守府夏長官子爵中牟由倉之助



海軍省

電報譯

本日江田島より吳へ回艦

明治二十五年四月七日

吳

吉田摩那艦長

横須賀軍港司令官福島少将殿

電報

紙達送報電年 ^カ 治明

事記	技手	局着	局			發		
			全後	日	局	第	報	
	三	外 三 甲	カ イ シ ユ シ	カ イ シ ユ シ	カ イ シ ユ シ	カ イ シ ユ シ	第 八 號	報
今日江田島に寄り呉、田艦ス	マ ヨ リ ク シ カ イ シ ユ シ	マ ヨ リ ク シ カ イ シ ユ シ	マ ヨ リ ク シ カ イ シ ユ シ	マ ヨ リ ク シ カ イ シ ユ シ	マ ヨ リ ク シ カ イ シ ユ シ	マ ヨ リ ク シ カ イ シ ユ シ	マ ヨ リ ク シ カ イ シ ユ シ	マ ヨ リ ク シ カ イ シ ユ シ

1270

三六〇
七十一

横領三第 四六六三

別紙進達候也

明治三十年 七月十一日

横須賀鎮守府良長官子爵中牟田君之助
海軍大臣伯爵 在御座候殿

横須賀鎮守府
良長官子爵中牟田君之助
御座候殿

海軍省

曹氏漢文

本
日
午
時
刻
及
一
句
為
證
又

已
於
廿
日

吳
江
沈
氏

古
田
陳
氏
啟
長

為
此
事
由
此
事
由
此
事
由

海
軍
省

第七五三
尺月十六

横鎮三第 四七九 歸之二

別紙進達候也

明治二十二年 乙月 十日

横須賀鎮守府司令長官海軍中將 齋藤 中 由 夏 郎
海軍大臣伯爵西郷從道 殿

横須賀鎮守府
海軍中將 齋藤 中 由 夏 郎

不奉

海軍省

1274

高直野

今午浮六時也海平
已

兵部海防

廣海防也

海防也

海防也

海防省

三六〇
五月九

海軍省
第六三九號

別紙進達候也

明治廿一年五月廿三日

横須賀鎮守府司令長官海軍中將子爵中牟田夏助
海軍大臣伯爵西郷從道殿

横須賀鎮守府
海軍省

海軍省

1277

菅原清

今三十四日午後

号

菅原清

菅原清

海軍省

卷三六三
五月六日

横鎮三第之三九番

候

別紙進達候也

明治廿一年五月廿五日

横須賀鎮守府司令長官海軍中将由倉益助
海軍大臣伯爵西郷從道殿

横須賀鎮守府
司令官 益助

海軍省

電報譯文

当船波濤ノ為当港ニ投錨ス鎮静ス第
出艦

廿一年五月廿四日

鳥羽港

摩耶艦長 吉田重親

軍港司令官 務基 敬典 殿

海軍省

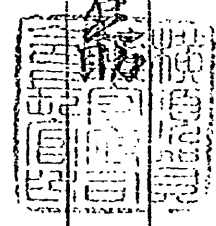
三六九四
五廿九

横濱三第 六四

別紙進達候也

明治十二年之月廿八日

横濱賀鎮守府司令長官海軍中將西郷從道殿
海軍大臣伯爵西郷從道殿



海軍省

電文簿

波濤静穏ニ成リ今午出艦ス

明治廿一年五月廿七日

鳥羽港

摩耶艦長吉田重親

軍港司令官福島敬典殿

海軍省

1282

摩多号身六ノノ

投り及港ノ着所ノ多日届

明治五年五月廿三日、午前十時四十分身摩多港
着全午九時三十分起出大島橋杭ニ投錨翌正
四日全港着波濤ノおノ夕日午後八時着摩多港
港ニ投錨全廿七午後八時十分全港投錨ニ候不良
ニ為メ三ヶ所浪ノ多ク投錨全廿九午後八時全中
着全廿九日午後六時投り及港ニ投錨翌日未
起多日届仕也

明治五年五月三十日

投り及港

摩多号長吉田重



五三〇三

閱覽濟

第 五 二 九 號 二

別紙進達候也

明治廿一年五月四日

横須賀鎮守府司令長官海軍中將少將中牟田夏助
海軍大臣伯爵西郷從道殿

大正

海軍省

摩子普第十三号

兵學校學習船挽曳江田島、面航

之義報告

明治廿一年三月廿一日 天候晴 風位南西風力一

午前五時四十五分學習船ヲ挽曳シ小野須拔錨同八時十分
 平瀬ヲ経過シ鐵路ヲ西微南ニ定ム同八時四十分鐵路
 ヲ西微北ニ變ヌ同時五十分西北西ニ變ヌ同九時明治燈
 臺ヲ左舷正横ニ見シ鐵路ヲ西南西ニ變ヌ同十一時
 鐵路ヲ西南西ニ分ノ西ニ變ヌ同十二時鹿ノ瀬浮標
 小神島ヲ直線ニ見ル午後一時鐵路ヲ南西微西ニ變ヌ
 同三時鐵路ヲ西南西ニ分ノ西ニ變ヌ同三時三十分鐵路
 ヲ西微南ニ變ヌ同四時十分大洲岬ヲ経過ス同四時三十分
 横鎮ニ到ル

分鐵路ヲ西ニ渡ス同五時鐵路ヲ西ニ分ニ北ニ渡ス同五時四分
ヲ鐵路未定同時地蔵崎ヲ経過ス八時小豆島池田畷ニ

投錨 (右舷錨福鎖
三前ヲ近ス)

深七日岸底質泥、埋火ス

三月廿二日 天候晴 風位不定 風力

午前七時三十分小豆島池田畷投錨 鐵路未定同九時三十分

左舷機械ヲエマホシテイルロッドカイロケツゴニ破綻ヲ生ス

因テ直ニ運轉ヲ止ム右舷而已ヲ以テ航ス同十時トヨニスルト

ライスルヲゲルレスルヲ廉ス午後零時二十分ヲスロシカシラ廉

ス同時四十分ヲスロシカシラ絞ル

同二時三十分鍋島燈臺ヲ右舷正横ニ見ル同三時二十分トヨシ

カシラ廉ス同四時四十分惣帆ヲ絞リ同五時三十分讚州多度

津中ニ投錨深四日岸底質泥社ニ介機損所

ノ上部、鉄丸棒ヲ以テ禱ヲ掛ケ、及ノ修理ヲナス
(右舷錫錫鎖) (三節ヲ追)

三月二十三日 天候晴 風位西 風力一

午前十時多度津 抜錫先艇 檣械ヲ七十五轉トシ 右舷ヲ六

十轉トシテ 航行鐵路不定 四時十五分 高見島ヲ先艇正横

ニ見ル 午後零時四十五分 鐵路ヲ西ニ分ノ一北ニ定ム 四時十五分 鐵

路ヲ西北西四分ニ西ニ變ス 四時三十分 鐵路ヲ北北西ニ分ノ一西

ニ變ス 四時三十分 備後鞆津ニ抜錫ス 深ク守岸底所流

埋メス (右舷錫鎖) (三節ヲ追)

五月廿四日 天候晴 風位北東 風力一

午前七時三十分 備後鞆津 抜錫 檣械運轉 前日ノ角ヲ鐵路ヲ

西南西ニ分ノ一南ニ定ム 八時十五分 鐵路ヲ南西微西ニ變ス

四時三十分 長巻夫ヒヨシヲ先艇正横ニ經過ス 午後一時

三十分 フエドノ島浮標ヲ先艇正横ニ經過ス 四時三十分

三十一

伊豫国小部港に投錨ス深五尋半機柵諸部検査中其船
「エマホシ」フテイルワトト、少此アルヲ発見ス據テ曰夜中而船ノ「カイ
、」フステイラトリ「カイ」トノ震動ヲ方キタリ

三月廿五日天候晴或、而風位南東 風力二

午前八時四十五分伊豫小部投錨而船機柵平均五十五轉ヲ

以テ航行ス曰九時十七分総帆ヲ展、午後零時四十分後爪驟雨為

メ総帆ヲ縮ム曰一時三十分大籠島ヲ經テ鐵路ヲ北西微西四分ノ

西ニ定リ曰四時倉橋島ニ投錨機柵所置状ナレ

三月廿六日天候半晴風位北東 風力一

午前七時三十分倉橋投錨機柵轉前日ノ如シ正午ヲ北東風

強ク前進ス能ハズ不得止午後三時三十分巖島南端致波

沖ニ投錨（五尋錨）

三月廿七日天候晴風位北東 風力一

午前七時三十分玖波沖投錨機械運轉前日如午後一時三十分
江田島兵學校建築地ハ安着投錨深九尋底質泥
右底質之録
三ノ四ノ五ノ六

四月七日天候晴風位北東風力一

午後一時三十分石炭積載ノ為、江田島投錨航路不定、三時三十分
分呂港ニ投錨左底質之録
一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六深九尋底質泥

四月十日天候雨風位北西風力一

午後一時五分呂港投錨、一時三十分小呂鹿心港ヲ経過シ、
北ニ定ム、二時鐵路ヲ北々西ニ分ク、西ニ變ヌ、二時三十分峠島ヲ
正視シ見テ鐵路ヲ斷シ北西微西ニ分ク、三變ヌ、二時五十分似ノ島

南微西ニ見テ鐵路ヲ西二分一南ニ変ス曰三時四十二分天候不良ニ
付巖島内宮嶋ニ投錨(丸錨錦錨)深四尋羊底質泥

四月十二日 天候晴風位北東風力一

午前五時三十分宮嶋投錨曰六時十二分小那沙美島ヲ經過シ

鐵路ヲ南微西二分一西ニ定ム曰七時二十分白石ヲ經過シ鐵路ヲ

南々東二分一東ニ変ス曰八時卅分頃ヨリ漸々風力増加ス曰八

時五十分小柱島ヲ正横ニ見テ鐵路ヲ南東微東ニ変ス曰九時

十七分横島ヲ經過シ鐵路ヲ東南東二分一東ニ変ス曰九時

五十四分三ツ石ヲ經過ス曰十一時二十五分鐵路ヲ北東微東二分

一東ニ変ス正午ヲイッキ島ヲ北微東二分一東ニテアト嶋ヲ

西微南ニ見ル北緯三十四度五分三拾秒東經一百三十二度四十七

分三十秒ニシテ鐵路ヲ北東ニ変ス午後一時大下瀬戸ニシテ

微航路不定風力漸ニ軟ニ趣ク同六時二十分鐵路ヲ東微南ニ

定日九時四十五分讚岐國粟島に投錨ス(左錨船々鎖
三ノ即ヲ定ス)深六ノ三寸
半底質泥

四月十三日天候半晴風位東風力一

午前四時五十四分粟島に投錨航路不定日七時十五分鍋島燈臺
ヲ經過ス正午大門岬ヲ西微北ニ高嶋ヲ南西ニ見ル北緯三十四度
二十五分四十五秒東經百三十四度二十分三十分天測緯度北緯
三十四度二十五分八秒ニシテ鐵路ヲ東北東四分三東ニ定ム午後
四時三十分明石燈臺に至リ經過ス日六時七分兵庫港ニ投錨ス

(左錨船々鎖
三ノ即ヲ定ス)深五尋底質泥

右報告候也

明治廿一年四月

在兵庫港

摩耶艦長吉田重親

海軍省

横須賀軍港司令官福島敬典

道

1293

普三七五
六月一日

閱覽濟

横濱三第大三五號八

別紙進達候也

明治三十一年九月三日

横濱賀鎮守府司令長官海軍中將
海軍大臣伯爵西郷從道殿



大臣

海軍省

海軍省

楊子監軍港司令在 福家 敬 謹

楊子監軍

普三
六月七日

不
為
覽

橫領三卷七〇六號

別紙進達候也

明治廿一年六月六日

海軍大臣伯爵西郷從道殿

横須賀鎮守府司令長官海軍中将中牟田倉吉

海軍省印

本宿

海軍省

唐の書第三

兵庫陸ヨリ核以書陸ニ至ル脱函記事
別紙ニ通ニ於東口あり由付物

明治廿一年六月二日

核以書陸

海軍省 陸軍省 陸軍省

核以書 陸軍省 陸軍省

海軍省

航海記事

五月廿三日天候雨 喫水(前部 八呎 三吋 后部 十一呎 六吋)

午前四時四十五分兵庫港拔錨微速前進ヲ始ム

全 八時四十五分菅島燈台ヲ東ノ北ニ見テ針路ヲ南四分ノ

一東ニ変ス

零時

日御崎ヲ東二分ノ一南ニ見テ針路ヲ南東

四分ノ一南ニ変ス

午后四時

鍼路ヲ南東ノ東二分ノ一東ニ変ス

全 七時

潮御崎燈台ヲ北々東ニ見ル是ヨリ針路不

定

全 九時三十五分紀州大島橋杖ニ投錨深七尋半

海底砂錨鎖貳節ヲ出ス本日行程凡ソ百。

五瀬里

五月廿四日天候晴

午前四時二十分大島拔錨針路不定

全 六時二十分針路ヲ北東二分ノ一北ニ定ム

全 十一時 針路ヲ東北東ニ変ス

午后三時三十分神島ヲ北々西ニ見ル

全 五時 波浪高クシテ動搖烈シキガ故ニ鳥羽ニ入港

セシガ為ノ安衆崎燈台ヲ北イ西二分ノ一西

ニ見テ針路ヲ北四分ノ一東ニ変ス

全 六時三十分若鳥燈台ヲ北西イ北ニ見テ針路ヲ換ヘ菅島

ノ南端ヲ經過シ午后八時鳥羽港ニ投錨左舷

深六尋海底砂土錨鎖二節ヲ出ス本日行程凡

ソ九十六海里

五月廿五日及廿六日ハ天候不良ノ模様ニテ全港ニ碇泊ス

全 廿七日天候晴 喫水(前部七呎 后部十呎)

午后零時五十分抜錨出港

全 一時十分半速力ニテ針路不定

全 一時四十分伊良湖埼西端ヲ北イ西ニ見菅島燈台ヲ正西

ニ見テ針路ヲ東四十分ノ一南ニ定ム

全 二時 天候不良ニツキ針路ヲ換ヘ方位ヲ参河湾ニ

取ル

全 二時四十分湾内ニテ帆前演習ノ為メ汽機ヲ止メ展帆ス

全 五時 総帆ヲ畳ミ汽機運転ヲ始ム

全 六時十分渥美湾中山沖ニ投錨(右舷)深三尋半底質砂錨

鎖二節ヲ出ス

五月廿八日風雨減三十分ヨリ二十九分迄六一ニ至ル

風向北ヨリ南西ノ間ニシテ風力ハニヨリ五ニ至ル

今月廿九日天候晴正午風雨鍼二十九イシハ八九風向北西ニシテ風力一ヨリニニ至ル

午後一時二十分抜錨出舩針路不定

今 三時 伊良湖埼ヲ北西四分ノ一西ニ見神島ノ南端ヲ西二分ノ一南ニ見テ鍼路ヲ東二分ノ一南ニ定ム

今三十日午前零時五十分御前埼燈台ヲ正横ニ見ル

今午前四時三十分針路ヲ正東ニ変ス

今 六時 針路ヲ東二分ノ一北ニ変ス

今 七時 石室埼燈台ヲ北イ西二分ノ一西ニ見ル神子元燈台ヲ北東イ東ニ見テ針路ヲ北東イ東ニ

変ス

全 七時三十分針路ヲ北東ニ分ノ一東ニ変ス

午後二時三十分鍼路ヲ北東ヲ東四分ノ三東ニ変スレ

全 三時二十分針路ヲ東ニ分ノ一北ニ変ス

全 三時五十分刺埼燈台ヲ北四分ノ一東ニ見テ針路ヲ北々

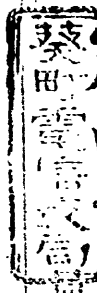
東ニ分ノ一東ニ変ス

全 五時 觀音埼燈台ヲ西二分ノ一北ニ見テ針路ヲ北

々西ヲ西ニ変ス

全 六時廿五分横須賀港へ投錨深サ七尋錨鎖二節底質泥

紙 送 報 電 年 一 夕 治 明

事 由	投 手	局 着	局	後
	多 地	 件 四 甲 虎	午 時 五 分 十 八 分	第 四 一 號 三 三 三 三 三 吉 田 三 三 三

大砲好結果今々帰港下

マキコウス
 夕イホウコウケウカイ

洞 牧

カ
 夕
 夕
 夕
 夕

夕
 夕
 夕
 夕

機密

決裁濟

小鷹甲第 一ノ四

小鷹甲第 五

普六
七月十日

明治廿一年四月九日

大臣

次官
代理

秘書官本宿

淨寫

校合

發付
四月十日

主務

伊藤

送給課長

日保課長

掃部課長

郵政課長

聯帶

主務

送給課長

小鷹為経より其の嘆詞ヲ搭掛載ニ送
給主より相成りし旨生録重畳
抄リ嬉々送給為り奉り申上座

1307

海軍省

於午旋約スベシ

但手委申事 難詰 為石 協談スベシ

明治三十四年四月十日 大臣

横濱海軍工廠事務長 藤田 虎之助

1308